

第11回 第2次日野市立図書館基本計画策定委員会 議事概要

■日時：平成24年12月7日(金) 15時00分～17時00分

■場所：市役所201会議室

■出席者：田中委員、野田委員、廣澤委員、山岡委員、松尾委員（委員長）、増子委員（副委員長）、大杉委員、宇津木委員（館長）
（事務局）鬼倉、清水、佐々木、原、星

■欠席者：窪川委員、長崎委員

1. 開会

・事務局より配布資料の確認

2. 第10回委員会の議事録について

・各委員にメール等で事前に送付し、ご意見により追加・修正等を行った議事録についての内容の確認を行った。第9回委員会議事録について事務局で再確認したところ「NTT無線LANが入っており、NTTと契約している端末のみがつながる。」ということであったため、訂正することで各委員の承認を得た。

3. 素案(計画本文)の検討(3)

・配付資料「第2次日野市図書館基本計画素案（12月6日案）」、計画本文案「まえがき部分」「序章部分」「第5章部分」の検討。

◆まえがき◆

委員①：内容はほぼ同じであるので、基本的にはこだわりはない。どちらでも良い。

委員②：民主主義の箇所は、ちょっと仰々しいと思う。

→（事務局）社会教育では、民主主義が必要であるが、もう少しやわらかくニュアンスを変えてD案を作成した。

委員③：「本の力」を後にして、「図書館の力」を先に持ってくる方が良いと思う。

委員④：「図書館の力」を先の方が良いと思う。本だけにこだわらず、その他の幅広い事も考えるべきであるので、本は後の方が良い。

委員⑤：本があつての図書館であるので、先に図書館が来るべきである。

館長：図書館の力は、役割みたいな事を記述しているので、それを先に出すことはどうかなと思う。
本があつての図書館である。

委員長：本来、「本の力」を書こうということでここまで来て、「図書館の力」は、それに付随して出てきたことである。それでは、「本の力」を先にして、D案にしたい。

◆序章◆

1. 日野市立図書館のあゆみと活動

委員①：栄えある歴史があることを、B案ではさらっと書いてあるので、B案の方が良い。

委員②：B案が良いと思う。

委員①：広い意味での図書館は、建物を含めており、今の時代に合うと思う。

コンサル：国語的に、主語と述語の関係がおかしい箇所があつたので、一部修正したい。

→ (事務局①)：歴史と伝統が少し気になる。

→ (事務局②)：市民目線で見たときに、ちょっと手前味噌ではないか。

委員⑤：中小レポートのことを載せることはどうか。

委員長：他の自治体も同じようにがんばってきており、日野だけではないので、B案にしたい。

2. 図書館を取り巻く時代の状況

－少子高齢化時代－

委員長：「設備」の「備」と「備え」が二重になることが気になる。

委員④：後の「備え」をひらがな表記にしてはどうか。

館長：子連れという表現は、子ども連れの方がよい。

委員⑤：子育て世代等の等とは、具体的にどのような方達になるのか。高齢者のことか。

→ (事務局) 高齢者の事などと考えている。

委員①：この部分は子育て世代だけでなく、親だけでなく子ども達と一緒に来る幼稚園や保育園の先生等も含めていると理解している。高齢者のことは、上の3行に記載されている。

－ライフスタイルの多様化－

委員長：イノベーションは、表現が硬いのではないか。整備では少し弱い。改革もどうかと思う。

委員⑤：改革の方がまだ良いが、それでも少し表現が硬い。

委員①：市民目線で見たときに、少しカタカナ言葉が多いように思う。

館長：お役所言葉ではなく、誰が読んでもわかりやすい表現にして欲しい。

委員④：発展とか成長。

コンサル：「市民にとって、より身近な図書館となることが求められています。」と言い回しを変えた方がよいのではないか。

委員長：語尾が、期待されていますとなっているので、「市民にとって、より身近な図書館となることが期待されています。」としたい。

－ICT(情報通信技術)社会の進展－

委員①：IT化の方が一般的だと思う。「情報化(ICT)」とするべきではないか。

委員②：IT化が良いと思う。

館長：市役所にICT推進室があるためにICTという用語を使っているが、市民にわかりやすいように先に「情報通信技術(ICT)社会」としてはどうか。

コンサル：当初、略語はITであり日本語訳は情報通信であったが、ITのTはTechnologyであり、通信はCommunicationである。このCommunicationが元の略語中になかったため、現在ではICTという方が一般的である。

委員①：それでは、「情報通信技術(ICT)社会の発展」として、アルファベットのICTはカッコ書きにするとということ。

－経済格差の拡大－

委員①：経済のグローバル化など、詳しい説明は不要。

委員③：生活保護受給者が増えているという、お金が無くても図書館は利用できるというように受けとめられるので、不要ではないか。

→ (事務局) 新聞を取れない家庭は増えており、新聞広告に入っている求人広告は、市のセーフティネットコールセンターに提供したりしている。また、就職活動の支援として、図書館では求人情報などを提供している。

館長：扶助費が増えているため、社会教育費が減ってきて、図書館の本も減ってきている。しかし、ここでは、情報提供のことが多い。

委員①：厳しい経済状況の中で、本をなかなか買うことができない人も多い。そういう中で、皆が必要な本を利用できるということと、求人情報などのサービスも図書館で利用できるようなするという、2つの意味があると思う。

委員長：ここで、生活保護受給者と記述することには抵抗がある。

委員④：ここでいうグローバル化は、アメリカの資本主義のことであり、EUのグローバル化とは別の意味となる。

委員長：長期にわたる経済不振や賃金の低下によりデフレが常態化しています。非正規雇用の拡大により経済格差も拡大する中で、図書館は今まで以上に市民が必要とする・・・としたい。

委員①：IT化があるのならば、国際化も必要ではないか。

委員④：私達の周辺に国際化は実際に進んでいるので、難しく考える必要はない。

委員①：世の状況として、国際化はICT化の下に認識として入れるべきではないかと思う。中味には、私達の国際化と外国人への対応を含む。

委員長：国際化については、別項目で作るとし、パブコメにはここでの案をまとめ、その後委員の方々へ回覧していきたい。委員の意見にあった「行財政改革」については、上位計画にも記載されていないことは、この計画では触れることができないため、記述しないことにする。

◆5章 計画の（重点的な）取組項目における進行表◆

委員長：平成24年度からの進行表になっているが、今が平成24年度であるがそのあたりはどう考えるのか。また、平成24、25、26年度に検討や準備が集中しているが、6年間の計画なので、もう少し進行表はばらついた方が良くはないか。平成29年度は、ほとんど終了している。

→（事務局）平成26年度は、続けてやっているということになる。

館長：「公文書館機能の整備」はこの進行表のようにできるのか。

→（事務局）図書館だけでなく、総務課等関連部局とも一緒にプロジェクト会議を行っている。今年度末を目標に検討をまとめる予定であるが、来年度にはいるかもしれないので、来年度は準備とし、試行選別を行った上で実施となる。

館長：試験運用は、もう1年伸びた方が良くはないかと心配している。

委員①：6（3）と7（2）も項目があるので、追加して欲しい。平成24年度の欄は不要ではないか。また、第6章はどうなっているのか。

副委員長：平成24年度と同じ言葉を平成25年度にも入れておかないと、平成24年度は、計画はないが事業を進めていることになってしまう。

◆6章 計画の進行管理について◆

→（事務局）図書館は図書館協議会から図書館の運営等に意見をいただくことになっているので、進行管理のための組織は作らない予定である。第6章のアンケートについては、開かれた図書館運営のP22へ移動したい。

◆2章 日野市立図書館の現状と課題◆

委員長：事務局で整理しているので、これでいきたい。

委員長：パブリックコメントは、本日の内容で再度確認したい。

4. 事務局より(連絡事項)

- ・パブリックコメントは、1 / 15の広報ひのに掲載。1月31日(木)が〆切となる。
- ・第12回委員会は 2月15日(金)午後3:00~5:00 市役所506会議室

5. 閉会

以 上